

「地域の力」強化が課題 地区防災計画シンポジウム開催

「第3回黒潮町地区防災計画シンポジウム」が10月28日(土)、大方高等学校で開催され、約250人が参加しました。

同シンポジウムでは、佐賀小学校5年生らによる実践報告や、2地区の自主防災会の取組に関する報告がありました。

また今回は、平成23年の東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町旭ヶ丘地区の佐藤良夫区長が来町し、被災の経験を交えながら同地区が取り組む防災について話がありました。佐藤さんは講演の中で、「避難道の標識など、自分のまちにはない取組が黒潮町にはある。この素晴らしい対策を自分の地区にも伝えたい」と黒潮町の防災対策について触れました。



被災の実態について語る佐藤区長



パネリストによるディスカッション

最後には、「犠牲者ゼロを目指した後の今後の地域の活動」と題し、パネリスト5人を迎えディスカッションが行われました。討議の中では、「地域」や「つながり」といった言葉が多く交わされ、パネリストである東京大学大学院の片田敏孝特任教授からは「自助・公助には限界がある。これからは互助の力を伸ばしていかなければならない」と地域のつながりの必要性について語られました。

シンポジウムに参加していた黒潮町自主防災会の森岡健也会長は、「佐藤区長の話には、何度も被害を受けても立ち向かう強さを感じた。同シンポジウムを通じて、隣の人とのつながりや逃げれば助かるという意識を強化していかなければと思った」と話しました。

三浦防災フェスティバル



80人が参加しました。

この防災フェスティバルは、子どもたちが防災についての知識を深め、いざという時の対応方法を体験して防災力を高める目的で、PTAや自主防災組織、消防団などの協力により、高知県土木部防災砂防課の事業として行われています。

フェスティバルでは、様々な防災体験ができる大型車が用意され、参加者は、普段できない災害学習体験授業で災害の疑似体験をしたり、土砂災害学習や津波映像、南海トラフ



津波映像学習の様子

海トラフ地震の授業で、防災に対する知識を学びました。

三浦防災フェスティバルが10月21日(土)、三浦小学校で開催され、児童や保護者、地域住民など約1

会場では、過去の災害などのパネル展示や、非常時に役立つ灯りづくり、ロープワークなども行われました。

参加した松本十凜ちゃん(三浦小学校5年生)は、「一番面白かったのは土砂流3D体感シアターで、災害の雰囲気が体感できた。日頃から避難の準備をしたいと思った」と災害に対する思いを新たにしました。



1 土石流3D体感
2 降雨体験
3 起震車(地震体験)

4 ロープワーク
5 造波模型実験
6 灯りづくり